

[学会・シンポジウム]

1. 古田 巧、菅 敏幸：茶に含まれるポリフェノール類の生物有機化学的研究
COE 産官学ジョイントシンポジウム（静岡）、2007 年 3 月 15 日
2. 浅川倫宏、川本論一郎、古田 巧、福山 透、菅 敏幸：アルテミシジンの合成研究
日本薬学会年会 127 年会（富山）、講演要旨集（4）、p.10、2007 年 3 月 29 日
3. 小泉靖明、小林 秀樹、古田 巧、福山 透、菅 敏幸：(+)-デカルシビンの合成研究
日本薬学会年会 127 年会（富山）、講演要旨集（4）、p.11、2007 年 3 月 29 日
4. 廣岡康男、菅田 裕介、阿部紋子、古田 巧、菅 敏幸：EGCG ((-)-epigallocatechin gallate) 誘導体の効率的合成法の開発
日本薬学会年会 127 年会（富山）、講演要旨集（4）、p.13、2007 年 3 月 29 日
5. 鈴木宏隆、多治見寛子、古田 巧、脇本敏幸、糠谷東雄、辻 邦郎、菅 敏幸：Chafuroside 誘導体の効率的合成法の開発
日本薬学会年会 127 年会（富山）、講演要旨集（4）、p.13、2007 年 3 月 29 日
6. 相原義之、櫻田明日香、古田 巧、菅敏幸：ニトロベンゼンスルホニル (Ns) 基を用いたポリフェノール類の合成検討
日本薬学会年会 127 年会（富山）、講演要旨集（4）、p.13、2007 年 3 月 29 日
7. 稲井 誠、古田 巧、菅 敏幸：Myriocin の合成研究
日本薬学会年会 127 年会（富山）、講演要旨集（4）、p.86、2007 年 3 月 30 日
8. 北村祐樹、古田 巧、菅 敏幸：新規ホスフィン配位子によるカルバゾール誘導体の合成研究
日本薬学会年会 127 年会（富山）、講演要旨集（4）、p.141、2007 年 3 月 30 日
9. 竹元万壽美、石川智子、菅 敏幸：ペルオキシダーゼ酵素を利用した各種テトラヒドロカルバゾール誘導体の酸化的開裂反応を利用した 4-キノロン誘導体の合成
日本薬学会年会 127 年会（富山）、講演要旨集（4）、p.171、2007 年 3 月 30 日
10. 竹花裕貴、浅川倫宏、若杉祐子、古田 巧、井上 暢、福山 透、菅 敏幸：C-H insertion 反応を鍵段階とする bicyclo[3.3.0]octane 骨格の構築
日本薬学会年会 127 年会（富山）、講演要旨集（4）、p.175、2007 年 3 月 30 日
11. 伊藤舞衣、望月雅允、古田 巧、菅 敏幸：超原子価ヨウ素部位を組み込んだ人工リン脂質の合成研究
日本薬学会年会 127 年会（富山）、講演要旨集（4）、p.182、2007 年 3 月 30 日
12. Makoto Inai, Takumi Furuta, Toshiyuki Kan: Synthetic study of myriocin
FJS-2007, The Nineteenth French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry（富山）、講演要旨集、p.61、2007 年 5 月 14 日
13. Toshiyuki Kan, Yoichi Kita, Yuichi Morohashi, Yusuke Tominari, Shinnosuke Hosoda, Taisuke Tomita, Hideaki Natsugari, Takeshi Iwatsubo, Tohru Fukuyama: Convenient

Synthesethesis of Photoaffinity Probes and Evaluation of Their Labeling Abilities.
FJS-2007, The Nineteenth French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry (富山)、講演要旨集、p.81、2007年5月14日

14. Yasuaki Koizumi, Hideki Kobayashi, Takumi Furuta, Tohru Fukuyama, Toshiyuki Kan:
Total Synthesis of (-)-serotobenine.
FJS-2007, The Nineteenth French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry (富山)、講演要旨集、p.84、2007年5月14日

15. Yasuo Hirooka, Yusuke Sugata, Ayako Abe, Takumi Furuta, Toshiyuki Kan: Synthetic
study of (-)-epigallocatechin gallate (EGCG)
FJS-2007, The Nineteenth French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry (富山)、講演要旨集、p.86、2007年5月14日

16. 古田 巧、小泉靖明、鈴木紳也、石塚陽子、藤井 敏、東屋 功、田中 圭、菅 敏幸：新
規不斉源として期待されるビフェナンスリルエーテル誘導体の合成と立体構造
モレキュラーキラリティー 2007 (東京)、講演要旨集、 p.58、2007年5月16日

17. 若杉祐子、竹花裕貴、浅川倫宏、古田 巧、井上 暢、川本諭一郎、福山 透、菅 敏幸：
新規不斉補助基による高立体選択的 C-H insertion 反応の開発
モレキュラーキラリティー 2007 (東京)、講演要旨集、 p.289、2007年5月16日

18. 小泉靖明、小林 秀樹、古田 巧、福山 透、菅 敏幸：セロトベニンの合成研究
第 5 回次世代を担う有機化学シンポジウム (東京)、要旨集、p.4、2007年5月25日

19. 赤岩路則、横島 聡、菅 敏幸、福山 透：(-)-Lemonomycin の合成研究
第 5 回次世代を担う有機化学シンポジウム (東京)、要旨集、p.58、2007年5月26日

20. 菅田 裕介、廣岡康男、新田真里子、古田 巧、菅 敏幸：カテキン類の合成研究
第 6 回新規素材探索研究会 (横浜)、2007年6月8日

21. 石塚陽子、鈴木紳也、小泉靖明、古田 巧、田中 圭、東屋 功、菅 敏幸：新規不斉源と
して期待されるビフェナンスリルエーテル誘導体の効率的合成
第 6 回新規素材探索研究会 (横浜)、2007年6月8日

22. 稲井 誠、古田 巧、菅 敏幸：Myriocin の合成研究
第 6 回新規素材探索研究会 (横浜)、2007年6月8日

23. 小泉靖明、小林 秀樹、古田 巧、福山 透、菅 敏幸：セロトベニンの全合成
第 6 回新規素材探索研究会 (横浜)、2007年6月8日

24. 北村祐樹、橋本理乃、吉川誠二、古田 巧、菅 敏幸：新規ピアリアル型ホスフィン配位子
による含窒素複素環化合物の合成研究
第 91 回有機合成シンポジウム (東京)、講演要旨集、p.73、2007年6月12日

25. 小泉一二三、内田賢司、横島 聡、菅 敏幸、福山 透：(-)-モルヒネの合成研究
第 91 回有機合成シンポジウム (東京)、講演要旨集、p.161、2007年6月13日

26. 小貫 仁、伊藤舞衣、望月雅允、古田 巧、菅 敏幸：人工リン脂質誘導体の固相合成法の
開発

- 第 53 回日本薬学会東海支部総会・大会（名古屋）、講演要旨集、p.16、2007 年 7 月 7 日
27. 中山美穂、鈴木宏隆、多治見寛子、古田 巧、菅 敏幸：新規フラボン骨格構築法を用いた Chafuroside の合成研究
第 53 回日本薬学会東海支部総会・大会（名古屋）、講演要旨集、p.17、2007 年 7 月 7 日
28. 安田吉徳、廣岡康男、古田 巧、菅 敏幸：固相合成法による簡便なビオチンタグ導入法の開発
第 53 回日本薬学会東海支部総会・大会（名古屋）、講演要旨集、p.17、2007 年 7 月 7 日
29. 藤田悠介、小泉靖明、古田 巧、菅 敏幸、小林 秀樹、福山 透：デカルシビンの合成研究
第 53 回日本薬学会東海支部総会・大会（名古屋）、講演要旨集、p.18、2007 年 7 月 7 日
30. 磯部洋一郎、古田 巧、菅 敏幸：アクロメリン酸の合成研究
第 53 回日本薬学会東海支部総会・大会（名古屋）、講演要旨集、p.18、2007 年 7 月 7 日
31. 後藤敏裕、稲井 誠、古田 巧、菅 敏幸：Myriocin の合成研究
第 53 回日本薬学会東海支部総会・大会（名古屋）、講演要旨集、p.19、2007 年 7 月 7 日
32. 新田真里子、廣岡康男、菅田 裕介、古田 巧、菅 敏幸：カテキン類の立体選択的合成法の開発
第 53 回日本薬学会東海支部総会・大会（名古屋）、講演要旨集、p.21、2007 年 7 月 7 日
33. 中山美穂、鈴木宏隆、多治見寛子、古田 巧、菅 敏幸：Chafuroside の合成研究
第 42 回天然物化学談話会（仙台）、講演要旨集、p.125、2007 年 7 月 11 日
34. 相原義之、櫻田明日香、古田 巧、菅敏幸：ニトロベンゼンスルホニル (Ns) 基を用いたポリフェノール類の合成検討
第 42 回天然物化学談話会（仙台）、講演要旨集、p.125、2007 年 7 月 12 日
35. 小貫 仁、伊藤舞衣、望月雅允、古田 巧、菅 敏幸：人工リン脂質誘導体の固相合成法の開発
第 42 回天然物化学談話会（仙台）、講演要旨集、p.125、2007 年 7 月 12 日
36. 竹元万寿美：医薬品シーズとして期待される紅茶テアフラビンの高効率・高選択的合成法の開発
静岡県立大学 2006 US フォーラム、講演要旨集、p.19、2007 年 8 月 2 日
37. 村上宏起、古田 巧、廣岡康男、相原義之、菅 敏幸、鈴木 隆：エピガロカテキンガレート誘導体の抗インフルエンザウイルス活性
第 4 回日本カテキン学会（静岡）、講演要旨集、p.37、2007 年 8 月 23 日
38. 菅田 裕介、廣岡康男、新田真里子、安田吉徳、古田 巧、菅 敏幸：プローブ分子の創製を目的としたカテキン類の合成研究
第 4 回日本カテキン学会（静岡）、講演要旨集、p.50、2007 年 8 月 24 日
39. 新田真里子、廣岡康男、菅田 裕介、古田 巧、菅 敏幸：カテキン類の立体選択的合成法の開発

第 4 回日本カテキン学会（静岡）、講演要旨集、p. 51、2007 年 8 月 24 日

40. Toshihiro Goto, Makoto Inai, Takumi Furuta, Toshiyuki Kan: Synthetic study of myriocin

The 4th Korea-Japan Young Scientist Meeting on Bioorganic and Natural Products Chemistry（釜山）、講演要旨集、p. 52、2007 年 8 月 31 日

41. Yoshinori Yasuda, Eiji Tokumoto, Yasuo Hirooka, Takumi Furuta, Toshiyuki Kan: Solid-phase synthesis of biotin linker

The 4th Korea-Japan Young Scientist Meeting on Bioorganic and Natural Products Chemistry（釜山）、講演要旨集、p. 57、2007 年 8 月 31 日

42. 廣岡康男、古田 巧、廣岡康男、相原義之、菅 敏幸、高橋忠伸、鈴木 隆：カテキン誘導体の抗インフルエンザウイルス活性

The 4th Korea-Japan Young Scientist Meeting on Bioorganic and Natural Products Chemistry（釜山）、講演要旨集、p. 57、2007 年 8 月 31 日

43. 阿部祐三、竹部 亨、北 陽一、渡邊直登、富田泰輔、岩坪 威、菅 敏幸、横島 聡、福山 透：穏和な条件で切断可能なリンカーユニットの開発とフォトアフィニティープローブへの応用

第 51 回日本薬学会関東支部大会（東京）、2007 年 10 月 6 日

44. 赤岩路則、横島 聡、菅 敏幸、福山 透：(-)-Lemonomycin の合成研究

若手研究者のためのセミナー（東京）、2007 年 10 月

45. 北 陽一、藤間達哉、菅 敏幸、福山 透：Manzamine A の合成研究

第 92 回有機合成シンポジウム（東京）、2007 年 11 月 8 日

46. Takumi Furuta, Yasuo Hirooka, Yusuke Sugata, Mariko Nitta, Toshiyuki Kan: Synthetic study of (-)-epigallocatechin gallate analogs

The 3rd International Conference on O-Cha (Tea) Culture and Science（静岡）、講演要旨集、p. 59、2007 年 11 月 3 日

47. 古田 巧、小泉靖明、鈴木紳也、石塚陽子、藤井 敏、片桐幸輔、榊飛雄真、東屋 功、田中 圭、菅 敏幸：多環芳環を持つ新規軸不斉化合物の合成と立体構造

第 33 回反応と合成の進歩シンポジウム（長崎）、講演要旨集、p. 106、2007 年 11 月 5 日

48. 石塚陽子、小泉靖明、鈴木 紳也、小泉靖明、古田 巧、田中 圭、東屋 功、菅 敏幸：新規不斉源として期待されるビフェナンスリルエーテル誘導体の効率的合成

第 38 回中化連秋季大会（三重）、講演要旨集、p. 90、2007 年 11 月 10 日

49. 菅田 裕介、廣岡康男、新田真里子、古田 巧、菅 敏幸：カテキン類の合成研究

第 38 回中化連秋季大会（三重）、講演要旨集、p. 93、2007 年 11 月 10 日

50. 若杉祐子、竹花裕貴、浅川倫宏、古田 巧、菅 敏幸：新規不斉補助基による高立体選択的 C-H insertion 反応の開発

第 38 回中化連秋季大会（三重）、講演要旨集、p. 93、2007 年 11 月 10 日

51. 伊藤舞衣、望月雅允、古田 巧、菅 敏幸：Head グループに蛋白切断部位を持つリン脂質誘

導体の合成と機能

第 38 回中化連秋季大会（三重）、講演要旨集、p.106、2007 年 11 月 10 日

52. 廣岡康男、菅田 裕介、新田真里子、古田 巧、菅 敏幸：お茶由来のポリフェノールの生物有機化学的研究

第 26 回メディシナルケミストリーシンポジウム（相模原）、講演要旨集、 p.128、2007 年 11 月 28 日

53. 古田 巧、小泉靖明、鈴木紳也、石塚陽子、藤井 敏、田中 圭、菅 敏幸、片桐幸輔、梶飛雄真、加藤貴子、東屋 功：軸不斉新規多環芳族化合物の合成と立体構造

第 26 回メディシナルケミストリーシンポジウム（相模原）、講演要旨集、 p.190、2007 年 11 月 28 日

54. 横島 聡、小泉一二三、ザハリエブ イヴァン クラスイミロヴ、竹部 享、高瀬真衣、福山 透、高橋宴子、杉本康昭、岩坪 威、富田泰輔、不破春彦、金子 茜、佐々木誠、夏莉英昭、菅 敏幸、福山 透：天然物合成中間体ライブラリーからの γ -セクレターゼ阻害剤の探索

第 26 回メディシナルケミストリーシンポジウム（相模原）、講演要旨集、 p.268、2007 年 11 月 28 日

55. 石塚陽子、鈴木 紳也、小泉靖明、古田 巧、藤井 敏、田中 圭、菅 敏幸、片桐幸輔、梶飛雄真、加藤貴子、東屋 功：軸不斉ビフェナンスリルエーテル誘導体の効率的合成の開発とその立体構造

平成 19 年度日本薬学会東海支部例会（岐阜）、講演要旨集、p.11、2007 年 12 月 8 日

56. 若杉祐子、竹花裕貴、浅川倫宏、古田 巧、菅 敏幸：新規不斉補助基による高立体選択的 C-H 挿入反応の開発

平成 19 年度日本薬学会東海支部例会（岐阜）、講演要旨集、p.11、2007 年 12 月 8 日

57. 古田 巧、菅田 裕介、廣岡康男、新田真里子、村上宏起、鈴木 隆、菅 敏幸：プローブ分子の創製を志向したカテキン類の合成研究

平成 19 年度日本薬学会東海支部例会（岐阜）、講演要旨集、p.12、2007 年 12 月 8 日

58. 伊藤舞衣、望月雅允、古田 巧、高橋忠伸、鈴木 隆、菅 敏幸：蛋白切断部位を head グループとして持つリン脂質誘導体の合成と機能検討

平成 19 年度日本薬学会東海支部例会（岐阜）、講演要旨集、p.23、2007 年 12 月 8 日

[研究報告書]

1. 菅 敏幸（代表）：アミロイド β ペプチドの産出を担う γ セクレターゼの機能解明

平成 18 年度 日本学術振興会科学研究費補助金実績報告書（基盤研究（C））

2. 菅 敏幸（分担）、古田 巧（分担）：変異を克服した画期的抗ウイルス薬の開発

平成 17 年度 創薬等ヒューマンサイエンス研究重点研究報告書 pp. 25-30

3. 竹元万壽美（代表）：茶培養細胞を利用した紅茶テアフラビンの合成

平成 18 年度独立行政法人科学技術振興機構 JST サテライト静岡（実用化可能性試験）

4. 竹元万壽美(代表)：医薬品シーズとして期待される二次ポリフェノール類の効率的合成法の開発

平成 18 年度学長特別推進研究成果報告書

5. 古田 巧（代表）：膜蛋白質の選択的切断法の開発と応用

平成 18 年度日本学術振興会科学研究費補助金実績報告書（若手研究（B））

[研究・教育・社会活動]

1. 菅 敏幸：「ヘテロ環含有生理活性天然物の合成」

新規素材探索研究会 第6回セミナー、横浜フジビューホテル、2007 年 6 月 8 日

2. 菅 敏幸：「ヘテロ環構築を鍵とする生理活性天然物の合成」

有機合成ミニシンポジウム、東京大学薬学部講堂、2007 年 7 月 7 日

3. 菅 敏幸：「ヘテロ環含有生理活性天然物の合成」

大学院講演会、東京薬科大学、2007 年 7 月 27 日

4. 菅 敏幸、古田 巧：生物有機科学的展開を目指したカテキン合成

第 4 回日本カテキン学会（静岡）、依頼講演、講演要旨集、p.29、2007 年 8 月 24 日

5. Toshiyuki Kan: Synthetic study on heterocyclic natural products

The 4th Korea-Japan Young Scientist Meeting on Bioorganic and Natural Products Chemistry（釜山）、招待講演、講演要旨集、p.15、2007 年 8 月 30 日

6. 菅 敏幸：「簡単に除去できる保護基 Ns（ニトロベンゼンスルホニル）の化学の近況報告」

有機合成化学談話会、湯河原和光純薬研修所、2007年9月28日

7. 菅 敏幸：「ヘテロ環構築を基盤とする生理活性天然物の合成」

第20回分子認識科学を基盤とする創薬研究会、長崎大学薬学部、2007年11月7日

8. 古田 巧：生物有機科学的展開を志向したカテキン合成

日本農芸化学会中部支部第151回例会（静岡）、依頼講演、講演要旨集、2007年11月17日

[外部助成]

1. 菅 敏幸（代表）：光親和性プローブの簡便な合成法の開発

平成19年度 SUNBOR GRANT（研究助成金）

2. 菅 敏幸（代表）：医薬品のリード検索を指向した生理活性天然物の合成研究

財団法人武田科学振興財団（研究助成金）

3. 菅 敏幸（平成18年度事業推進担当者）：緑茶に含まれるポリフェノール類の生物有機化学的展開

グローバルCOEプログラム健康長寿科学学術研究推進拠点

4. 菅 敏幸（代表）：ヘテロ元素含有多環式天然物の合成

ノバルティス研究奨励金（研究助成金）

5. 菅 敏幸（代表）：顕著な生理活性を有する低分子化合物の合成と分子プローブ化

内藤記念科学奨励金（研究助成金）

6. 菅 敏幸（分担）：強力な抗ガン機能を有する生体機能分子の独創的合成ルートの開発

平成19年度科学研究費補助金（特定領域研究）

7. 菅 敏幸（分担）：生体機能分子の創製に関する研究の総合的推進

平成19年度科学研究費補助金（特定領域研究）

8. 菅 敏幸 (分担) : ヘテロ元素含有高次構造天然物の独創的合成法の開発

平成 19 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (S))

9. 菅 敏幸 (分担) : β アミロイドを標的とするアルツハイマー病新規治療法の開発

平成 19 年度 厚生労働省 保健医療分野における基礎研究推進事業

10. 菅 敏幸 (分担) : 創薬に繋がる V-ATPase の構造、機能の解明

ターゲットタンパク研究プログラム (文部科学省)

11. 菅 敏幸 (代表) : 不活性な C-H 結合への挿入反応を鍵とする生理活性天然物の合成

平成 19 年度 静岡県立大学学長特別研究費 (学長裁量分)

12. 菅 敏幸 (代表) : 医薬品のリード探索を指向した生理活性天然物の合成

平成 19 年度 静岡県立大学学長特別研究費 (学長特別研究)

13. 竹元万壽美 (代表) : 紅茶風味紅富貴に関する研究開発

平成 19 年度受託研究 (荒畑園)

14. 竹元万壽美 (代表) : カテキンをリード化合物とする抗発ガンプロモーション活性化化合物の合成

平成 19 年度 静岡県立大学特別研究費 (学長裁量分)

15. 竹元万壽美 (代表) : 紅茶 2 次ポリフェノール高含有新規紅茶飲料の開発

平成 19 年度 静岡県立大学学長特別研究費 (学長特別研究)

16. 古田 巧 (代表) : リン脂質バイオプローブの効率的合成と応用

平成 19 年度 静岡県立大学学長特別研究費 (学長裁量分)

17. 古田 巧 (代表) : お茶を科学するための EGCG プローブ分子の合成的供給と応用

平成 19 年度 静岡県立大学特別研究費（学長特別研究）